

厚生労働科学研究費補助金  
(障害者対策総合研究事業 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)))  
(総括・分担) 研究報告書  
精神科病院における骨粗鬆症の実態調査  
研究分担者 鈴木正孝 あいせい紀年病院副院長

研究要旨

精神科入院患者さんの高齢化により、身体的合併症に対する対処が極めて重要な問題となってきた。本研究では日本精神病院協会会員病院に対して骨粗鬆症の治療対象、診断方法、治療薬剤を調査し、その実態を把握することで精神科医療における骨粗鬆症治療のあり方を改善させることを目的とする。

A. 研究目的

精神科病院の入院患者の高齢化によって、近年は身体的合併症、特に骨粗鬆症を基礎として生じる骨折などに対する対処が極めて重要な問題となっているが、現状の一般精神科病院における骨粗鬆症の診断・治療については各病院の裁量にゆだねられているのが現実である。本研究の目的は一般精神科病院における骨粗鬆症の診断・治療の実態を調査することである

B. 研究方法

現在公益社団法人日本精神科病院協会に登録している全国の1141の会員病院に対して骨粗鬆症の診断・治療についてのアンケート調査を実施し、集計した。回答のあった病院のうち、DEXA測定装置を有する病院(以下DEXA病院)について骨粗鬆症の診断方法・治療内容について詳細なデータの収集および解析を行った。この結果を基に、あいせい紀年病院に入院中の患者全員に対して可及的に腰椎DEXA法での骨密度測定を行い、年代別、性別、精神科治療期間別にデータの解析を行った。

(倫理面への配慮)

調査対象が、訴訟に関わる場合もあるため、個人情報保護の観点に最も留意し、研究実験結果の公表に際しては個人の特定が行えないよう配慮するとともに、データ分析時にも個人名が特定できないよう個人情報を管理する。

C. 研究結果

回答のあった 566 病院のうち、33 病院が DEXA 測定装置を有しており、そのうち 11 病院から回答を得た。骨粗鬆症の診断は 10 病院(91%)が自院で行っており、DEXA を持たない病院における比率(29.9%)よりも極めて高値であった。診断対象については DEXA 病院では主に高齢者、骨折既往例、希望者に検査を実施しており、一部の病院では入院患者全員を対象としていた。

また、DEXA病院において検査が医師の判断に委ねられる割合が12%程度であったのに対し、DEXAを持たない病院ではその割合は36%と比較的高値であった。骨粗鬆症の治療についてはDEXA病院では2病院(18%)で診断が確定した全例に治療を行っているが、9病院(82%)では医師の判断により治療が行われていた。使用される治療薬はDEXA病院ではビタミンD製剤と経口ビスフォスフォネート製剤の併用が最も多かったが、DEXAを持たない病院ではビタミンD製剤の使用が最も多かった。あいせい紀年病院におけるデータは現在分析中である。

D. 考察

566の病院から得られた回答から、DEXAを有する病院では骨粗鬆症の診断を積極的に行う傾向にあった。しかし一方でDEXA病院においても骨粗鬆症治療については既に多数の薬剤を使用されていることや全身状態の問題から必ずしも全例で開始されている状態ではないことが推測された。

E. 結論

公益社団法人日本精神科病院協会に登録している全会員病院に対してのアンケートから精神科病院における骨粗鬆症の診断・治療の実態を調査した結果、一般精神科では骨粗鬆症に対する対策が十分とはいえず、精神科病院全体として骨粗鬆症に関心を持ち治療できる環境を作っていくことが重要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
口頭発表 2件

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし